

71 市街地に隣接する山麓の緑と土砂災害に対する住民意識について －札幌都市山麓グリーンベルト整備構想を例に－

北海道建設部砂防災害課 藤原 明
財団法人 砂防フロンティア整備推進機構 ○下澤徹也、佐光洋一

1. はじめに

市街地を取り巻く山地山麓域は、居住域としての生活の場であると同時に、都市域と自然の接点であることから、土砂災害に対する安全性の向上とともに生態系や景観の保全、快適な生活環境の維持のほか、レクリエーションの場としてなど、様々な機能の発揮が期待されている。このため、砂防事業においても十分に地域住民の意向をとり入れた整備が求められている。

札幌都市山麓グリーンベルト基本構想の策定においても、市民参加を目指すことから札幌都市山麓グリーンベルト対象範囲となりうる山地山麓域を「市街地に接する山麓」と称し、この地域周辺の住民に対し、土砂災害防止のほか、自然環境の保全、都市環境の保全、良好な郷土自然景観の保全、レクリエーション・自然体験の場の提供等の観点から、地域住民の砂防事業に対する評価と共に、市街地に接する山麓の樹林帯に期待される姿および望まれる整備を把握するため意識調査を実施した。本研究発表では本調査結果の概要を報告する。

2. 調査の概要

(1) 調査の方法

- 調査方法：調査票記入形式のアンケート
- 調査対象：札幌市中央区、南区、西区、手稲区に平成11年8月現在在住する市民
- 調査票配布・回収方法と期間：郵送による配布、回収；平成11年9月3日～9月26日
- 調査票配布数：無作為抽出による1,000人
- 調査回収票数（回収率）：203票（20.3%）

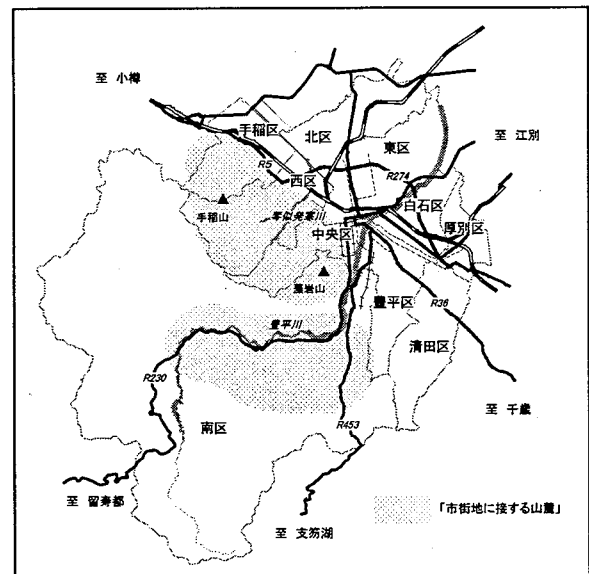


図-1 調査対象範囲

(2) 調査対象範囲

アンケートの実施に際して提示した調査対象範囲を図-1に示す。

3. 調査結果の概要

(1) 「市街地に接する山麓」の緑＝樹林帯のあり方に対する認識と意向

【イメージについて】 山麓の緑は自然や生態系を育む場であるイメージが、人々の憩いの場や安全を守るための場としてのイメージより強いことから、山麓の緑は市街地の住民の共有空間であるばかりでなく、自然や他の動植物とも共有すべき空間であると認識されていることが分かる。

【山麓のあり方】 今後、山麓がどのような場所になって欲

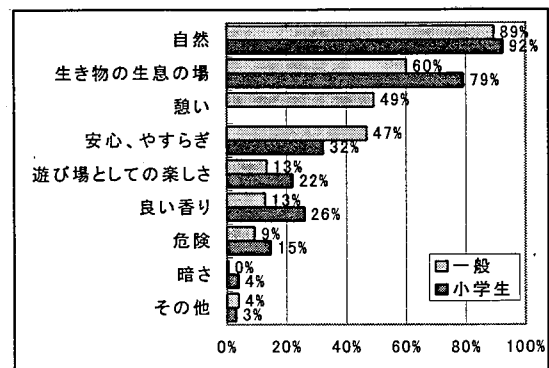


図-2 山麓のイメージについて

しいかという質問に対しては、「森林浴や散策」ができるような場所という回答が最も多いが、山麓の緑を遠くからながめたいという回答も多く、量としての緑の確保も望まれている。また、「自然なままの場所」という回答も多いことから、緑の質と量の両面において要望が見られる。

砂防事業と関わっては、山麓が「災害が発生しない場所」であって欲しいという回答が特に小学生では半数が回答していることから、自然さを重視しつつも災害防止の役割を果たして欲しいという回答が少なくない。

山麓のあり方としては、災害が起こらないことを前提としつつも自然にあふれ、多くの動植物が生息生育する場所であると同時に、時には人が自然を感じるために比較的自由に、だれでも入り込めることができる場所であることが望まれているといえる。

(2)土砂災害と砂防事業に対する認識と意向

これまで、土砂災害による被害を受けたり、危険を感じたりしたことがある回答者は全体の1割に満たない。被害経験者や危険を感じた人の割合は少ないが、山麓における砂防事業に対しては小学生を含むほとんどの回答者が「大切な取り組みだと思う」と回答しており、大半の人が土砂災害の危険はあまり感じないが、砂防事業を大切だと考えていることが分かる。

大切だと思わない理由としては、砂防事業によって自然や生態系に影響をおよぼすことを危惧する意見が多く、砂防事業そのものが札幌において必要ないと考えている回答者は少ない。

今後、砂防事業をどのように行うべきかについては、「もっと植物や動物などの自然の生態系に配慮した対策にして欲しい」という回答が市民、小学生共に最も多く、次いで「もっと自然の景観に配慮した対策にして欲しい」という回答となっており、自然環境への配慮を一層深めた事業の実施が期待されている。

4. まとめ

本調査結果から、札幌市の山麓における山麓の緑と土砂災害に対する住民意識は、次のようにまとめられる。

- ・ 量としての緑を確保すると同時に、自然の質としても人の手が加わらない「自然らしさ」を守ること、そしてだれもが比較的容易にそれらの緑に楽しむことができることが、重要な山麓のあり方の条件として挙げられる。
- ・ 山麓における砂防事業に関する認識は、回答率そのものが低いこと、認知度についても低いことから、事業の内容について市民への周知と理解を求める必要がある。若年齢層ほど理解度が低下することから、学校教育も含めて、周知と理解してもらう場を増やす必要がある。

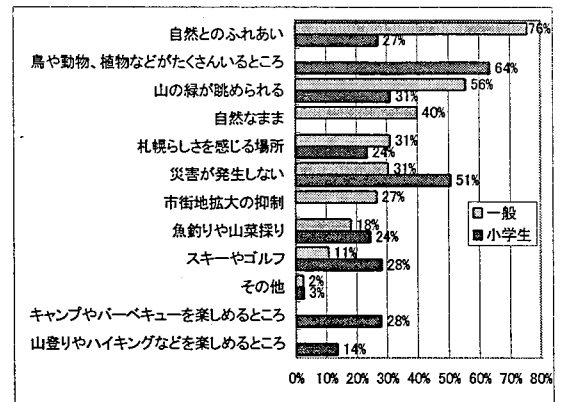


図-3 山麓のあり方について

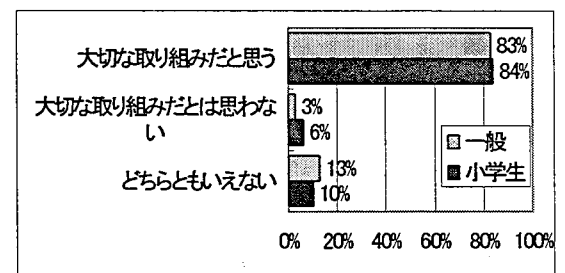


図-4 砂防事業の取り組みについて

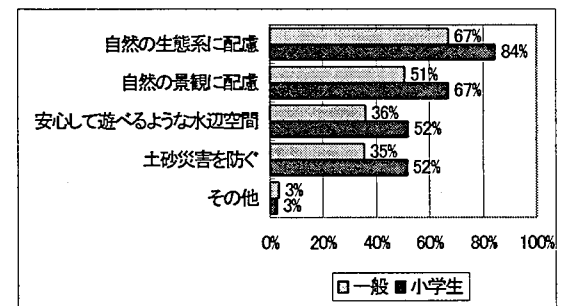


図-5 砂防事業への要望について